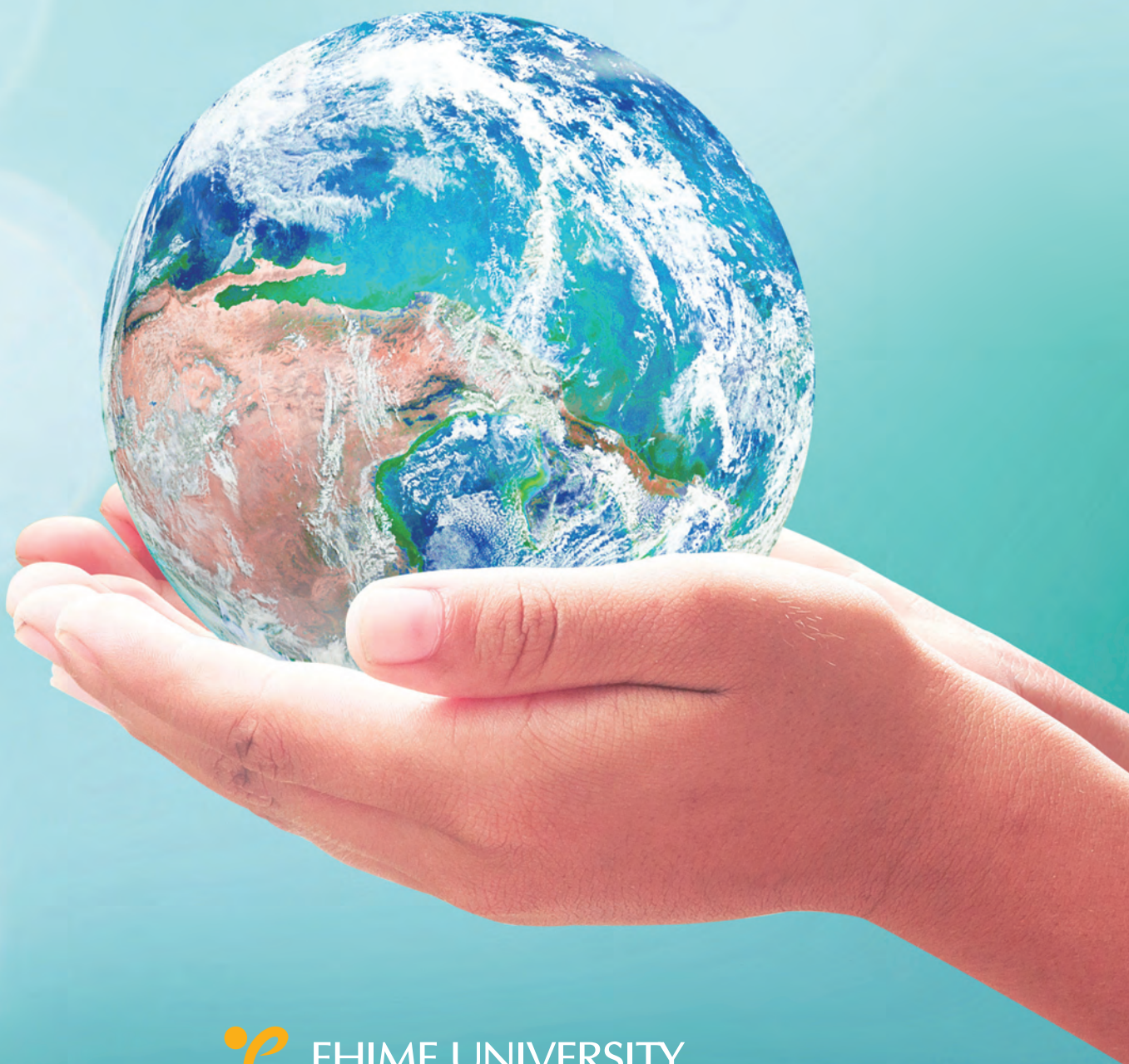


愛媛大学 × SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





愛媛大学におけるSDGs推進活動とは？

持続可能な社会づくりに向けてSDGsを達成するためには、地球規模で考えて解決すべき諸問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むこと(Think Globally, Act Locally)が必要となります。大学構成員の熱い思いが人々を動かし、一人ひとり努力することがより良い社会を創り上げることにつながります。そのため、愛媛大学でなければできないことはなにかを考えながら、地域ステークホルダーとの協働行為により、より大きな成果を求めて邁進していきます。

愛媛大学は、持続可能な社会の実現に向けて、新たな知を求め、必要とされる人材を育成し、地域や国際の枠を超えて様々なステークホルダーと協働し、現代社会が抱える複雑な諸問題を「自分事として考え」・「誰一人取り残さず」・「将来にツケを回さない」ように解決へと導くために、SDGsの達成を目指します。そのために、2019年10月にSDGs推進室を設置し、愛媛大学におけるSDGs活動を、全学的視点から地域や世界に向けて推進しています。



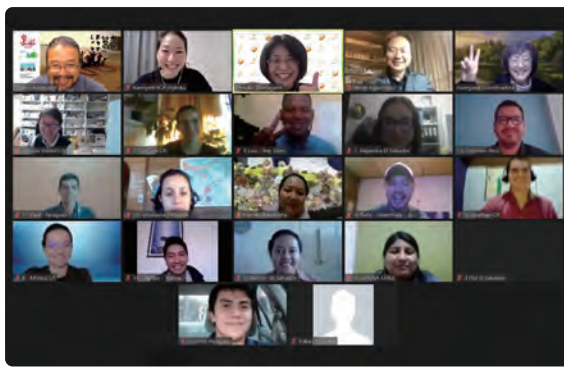
愛媛大学SDGsシンポジウム

愛媛大学のSDGs推進活動実績

ここで紹介する活動以外にも様々な分野で活動しており、愛媛大学公式Webサイトに公開しています。

<https://www.ehime-u.ac.jp/sdgs/>





JICA青年研修「中南米 アグリビジネス・アグリツーリズム」コースのコンテンツ開発と実施 [国際貢献]

国際連携推進機構 准教授 島上 宗子・小林 修
 社会共創学部 講師 笠松 浩樹・山藤 篤 助教 竹島 久美子
 JICA青年研修「中南米 アグリビジネス・アグリツーリズム」コースのオンラインのコンテンツを作成し、2週間のオンライン研修を実施しました。中南米9カ国で地元政府、農協、大学、研究機関などで農業普及、農産物流通、アグリツーリズムなどに携わる若手14名が参加しました。SDGsの達成を意識した農民主体のアグリビジネス、アグリツーリズムの研修とアクションプランづくりを行いました。



愛媛県の裸麦を用いた健康増進への取組 [研究]

農学研究科 教授 荒木 卓哉
 愛媛県の主要農産物である裸麦の高収量安定生産技術の開発や、もち性裸麦の育成に取り組んでいます。元来食物繊維(β-グルカン)が豊富な裸麦に、機能性成分を多く含む形質を付与した高機能もち麦の育成は、近年の健康志向の高まりと、今後到来する超高齢化社会において、人々を健康増進へ導くものと期待されます。



持続可能な社会を支える人材育成のための課題研究の推進 [教育]

教育学部 准教授 向 平和
 えひめサイエンスリーダースキルアッププログラムを、愛媛県教育委員会および愛媛県総合教育センター、愛媛県高等学校教育研究会理科部会・数学部会と連携して実施しています。本活動では、本学の多くの教員が関与して、県内の高校生の課題研究を支援しています。その中で、地域や環境に関する課題を取り上げており、SDGsに資する研究も多く、これからの社会を拓く人材育成につながる事が期待できます。



新エネルギーを活用した都市デザインに関する大学院生向けの教育 [教育]

理工学研究科 教授 森脇 亮
 持続可能な社会を実現するためには、エネルギーシフトは避けて通れません。エネルギー利用の歴史、特徴、最新技術を理解させるとともに、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを通して、再生可能エネルギー社会を実現するために必要となるスマートコミュニティや都市デザインのあり方について学習させています。
 ※左の図は、2020年度受講生(大島慧介・熊谷悠志・林信吾・渡邊友泰)が立案した、立花地区の都市デザインコンセプトです。

SDGsの17の目標 具体的な内容とは？



1 貧困をなくそう
 貧困に陥っている人々をなくし、金銭的にも精神的にも辛い思いをして生活している人を救うことです。貧困とは、貧しくて必要な食べ物や飲み物がなく、住み所もままならないことです。病気やケガで働けなかったり、質の高い教育を受けられなかったことなどでも、貧困は生じます。



2 飢餓をゼロに
 飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進することです。飢餓とは、満腹に食べることができず、栄養が足りなくて痩せ細ることです。貧困や疫病、紛争・戦争以外に、自然災害でも、飢餓は生じます。



3 すべての人に健康と福祉を
 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進することです。病気やケガなどを減らし、生活環境における空気・水・土などが汚染されないようにすることが大切です。また、普段から健康診断の受診と運動の習慣化を心掛けましょう。



4 質の高い教育をみんなに
 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供するとともに、生涯学習の機会を促進することです。学校など教育環境の保全以外に、教育者の確保も大切です。



5 ジェンダー平等を実現しよう
 男女などの区別なく誰でも、無料かつ公平に質の高い教育を受けられることや、乳幼児教育や初等教育を充実することです。とくに、すべての女性や女の子に男性や男の子と同じような力を与えるために、すべての女性及び女兒の能力強化を行うことでもあります。

8 働きがいも
経済成長も



5 ジェンダー平等を
実現しよう



11 住み続けられる
まちづくりを



変えていこう！ 私たちの働き方・働く環境 [社会貢献]

国際連携推進機構 准教授 小林 修

松山しごと創造センターが主催するイベント「Women's meeting vol.4 変えていこう! 私たちの働き方・働く環境」に登壇者として参加し、フリーパーソナリティとして活躍するやのひろみさんやゲストの皆さんと共に、参加いただいた社会人女性、愛媛大学生とオンラインで対話しながら、女性が働きがいを持ち続けられる多様性を大切にされた職場と社会のあり方について幅広く意見交換を行いました。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



11 住み続けられる
まちづくりを



松山市SDGs推進協議会との連携

～活動の中核を担う人材として～ [社会貢献]

社会共創学部 教授 西村 勝志・松村 暢彦 准教授 井口 梓
社会連携推進機構 教授 前田 眞 法文学部 教授 和田 寿博
理工学研究科 教授 野村 信福 国際連携推進機構 准教授 小林 修

内閣府によるSDGs未来都市に選定された松山市は、SDGs推進協議会を立ち上げ、経済・社会・環境の3側面の統合的取組による相乗効果の創出をもたらすべく、多様な会員企業との連携の下、自律的好循環を構築するモデル事業などを推進しています。SDGs推進室のメンバーがその運営を担い、また分科会においても本学の教員が深く関わっています。

11 住み続けられる
まちづくりを



3 すべての人に
健康と福祉を



13 気候変動に
具体的な対策を



愛媛大学SUIJIオンラインイベント

～withコロナ時代の持続可能な未来を探求～ [国際貢献]

社会共創学部 講師 笠松 浩樹
国際連携推進機構 准教授 小林 修・島上 宗子
教育学部 准教授 竹下 浩子

日本とインドネシアの学生220人以上が参加し、新型コロナウイルスの時代にどうやって持続可能性を実現させるのかをテーマに、レクチャーと意見交換を行いました。意見交換は、2020年に大きく変わった暮らし方、その中で実践・発見したこと、さらに次の10年間に向けたアイデアなどを出し合いました。最後に、各グループで話し合った内容を共有し、親交を深めながら、両国の事情を知ることができました。

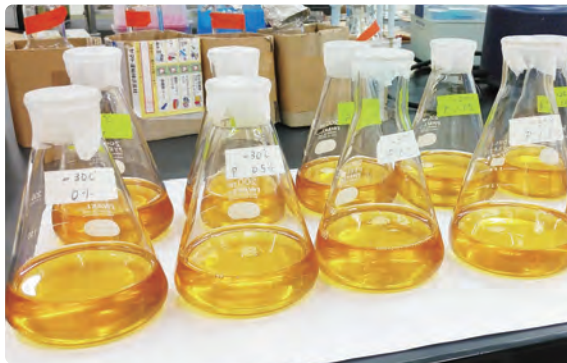
12 つくる責任
つかう責任



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



15 陸の豊かさも
守ろう



廃食用油を原料とした生分解性潤滑油 の開発と環境性能評価 [研究]

農学研究科 教授 高橋 真

地元企業との共同研究事業として、廃食用油を主原料とした「生分解性潤滑油」の開発と環境性能評価を行っています。一般的な鉱物油原料の潤滑油に比べ、環境中で分解しやすく、土壌や生物に対して優しいオイルです。とくに林業や樹木剪定等に用いるチェーンソーオイルとしての利用に向いています。地域で回収された使用済み天ぷら油等を原料として利用するため、循環型社会の推進にも貢献します。

6 安全な水とトイレ
を世界中に



安全な水とトイレを世界中に

すべての人々に水の利用と衛生を確保し、持続可能な管理を確保することで。安全で安心な水が手に入るようにし、汚い環境で生活しないで済むようにすることです。ゴミの適切な処理が実施できなければ、水質汚染など生活環境を不衛生な状態にします。

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に、安価で信頼できる、持続可能なエネルギーへのアクセスを確保することです。地球温暖化をもたらす温室効果ガス(CO₂など)を発生させないよう、環境にやさしい再生可能エネルギー(太陽光・風力・水力などの発電エネルギー)を安く、いつでも使えるようにすることが大切です。

8 働きがいも
経済成長も



働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全で生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を推進することです。働き方改革を推進し、児童労働や職場ハラスメントをなくし、働き甲斐を高め、生産性を向上させることが大切です。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図ることです。災害時に復旧しやすい設備を整え、被雇用者も十分な収入が得られるような産業を創ろうとすることが大切です。

10 人や国の不平等
をなくそう



人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の不平等を是正することです。不平等は、年齢や性別、障がいの有無、人種の違いなどによって起こることがあり、様々な差別、働く機会の不均等、不公平な商品売買取引などがあげられます。人々が平等に能力を強化し、経済格差を是正することが大切です。

11 住み続けられる
まちづくりを



住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現することです。これは、すべての人々が安全で、心地よく暮らせるまちづくりのことです。



地域の人々と考える 持続可能な未来地域社会 [教育]

社会共創学部 教授 榎原 正幸

社会共創学部が開講しているプロジェクト基礎演習・実践演習・応用演習において、SDGsの理念を理解しつつ、愛媛県の「四国西予ジオパーク」の活動と地元の人々との関わりを通じて、持続可能な未来可能性のある地域社会の在り方を、地域住民、西予市職員および学生と一緒に考え、課題解決に取り組んでいます。また、西予市の自然、ジオサイト、文化や人々の暮らしについて、インスタグラムで情報発信しています。



SDGs時代の森林管理の理念と技術 [研究]

農学研究科 教授 山田 容三

日本の森林管理を見直すため、グローバルには環境倫理の概念を尊重し、ローカルには人間の自然への関わり合いを尊重する日本の自然哲学を基本に森林管理の理念を整理しました。そして、持続可能な森林管理を実現するために、森林の環境保全と人間の森林利用のバランスを取る方策について、時空間的な多様性維持の概念と現代における森林と人間の関係性の向上の要素を加えて、7つの森林管理の理念を提案しました。



シトラスリボンプロジェクト [社会貢献]

社会連携推進機構 教授 前田 眞

シトラスリボンプロジェクトは、新型コロナウイルスに感染された方やその関係者、エッセンシャルワーカーの人たちが差別や中傷を受けない、「ただいま。おかえり。っていいあえるまち」を目指しています。安心の目印であるシトラスリボンを身につけ、誹謗・中傷・差別しない人を可視化するプロジェクトです。このプロジェクトを推進している共同代表として、共感と自発性を共創するワークショップなどを実施し、最終的には、リボンをつけなくてもいい社会を目指して活動しています。



東南アジアにおける蚊媒介感染症の生態学的制御 [研究]

沿岸環境科学研究センター 教授 渡辺 幸三

フィリピンとインドネシアにおいて、デング熱等を媒介する蚊の生息数や生息分布を制御するための研究を行っています。現地の大学や政府機関と共同研究を進めると共に、現地で技術講習を行ったり、若手研究者を日本に招き、技術習得のためのトレーニングを行うなどの人材育成も行っています。



つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産のバランスを確保し、廃棄物(危険物を含む)処理を適正に行い、廃棄物の量を測定することです。とくに、プラスチックなど使捨て品の使用を可能な限り抑制することです。便利さを求めるあまり、このままでは、地球の資源が枯渇するだけでなく、ゴミが増え続けてその処理ができなくなります。



気候変動に具体的な対策を

気候変動によって世界で起こる自然災害からの影響を軽減するために、具体的な対策を講じることです。まずは日常で、無駄なゴミを出さないことが大切です。無駄なゴミを焼却すると、CO₂が生じ、地球温暖化の原因となります。



海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用するとともに、海洋汚染を防止すること、また削減することです。我々は、海とそこで暮らす様々な生物から恩恵を受けています。海の生物多様性に悪影響を及ぼさないようにしましょう。



陸の豊かさを守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および回復、ならびに陸の生物多様性に悪影響を及ぼさないようにすることです。我々は、森や山などの自然とそこで暮らす様々な生物から恩恵を受けていることを忘れてはなりません。



平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築することです。世界が平和であるためには、世界各国での暴力をなくするとともに、子供への虐待・搾取を撲滅することが大切です。



パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化することです。これは、一人では解決できないことも、仲間とともに自分事として関わり、解決していこうということです。

なぜ、SDGsは社会で求められるか？

現代社会は、様々な問題を抱えています。環境の領域では、地球温暖化や自然災害の頻発、増え続けるゴミや核廃棄物の処理、生物多様性の崩壊など、国境を越えた形で問題が発生しています。社会の領域では、人口問題（日本では人口減少・世界では人口増加）、食料問題、大量生産・販売・消費・廃棄問題、土壌汚染問題や大気汚染問題などです。経済の領域では、所得格差や貧困問題、化石燃料の枯渇問題などです。これらは、グローバル化の進展に伴ってより深化してきていますし、現在の人類やその他の生物に関わるだけでなく、未来のすべての生き物にも関わる問題となってきています。

こうした問題を顧みることによって、「**今後、どうあるべきか**」を今いるすべての人々が地球規模で考え直し、これまでの我々の行動を変革することが、人々が心身ともに豊かに暮らし続け、次世代の人々もまた安心して暮らせる社会をもたらすことにつながります。したがって、現代の社会の在り方を見直し、持続可能な社会へと行動を変革していくことが大切です。そして、こうした人々の行動変革につなげるためには、SDGsの理念「**地球上の誰一人として取り残さない**」の下、一人ひとりが持続可能な社会づくりに必要な知識とスキルを得ることが求められてきています。

今日、こうした認識から、持続可能な社会の実現に向けた取組が世界で広がっています。

SDGsとは？

「SDGs(エスディー・ジーズ)」とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、MDGs(エムディー・ジーズ)の後継として2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた、国際社会共通の目標です。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会を実現するために、世界各国193か国が合意した17の目標と169のターゲット、そして232の指標です。

前身のMDGsとは、2001年にまとめられた2015年までの国際目標であり、1990年代に開催された主要な国際会議・サミットで採択された国際開発目標と、2000年に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言とを統合して作られた8つの目標です。これらは、開発途上国を中心とする問題を背景としていました。

これらのうち、2015年までに十分には解決できなかった貧困や飢餓の問題・ジェンダー問題・教育や健康の問題のみならず、その間に新たに発生してきた環境問題・社会問題・経済問題をバランスよく統合して解決するために、SDGsは誕生しました。



持続可能な社会とは？

持続可能な社会とは、今いる人たちが安心安全に生活でき、幸せな暮らしを送ることができるだけでなく、次の世代、さらにその次の世代なども同じように暮らせる社会のことです。言い換えれば、**将来世代のニーズを損なうことなく、現在世代のニーズを満たす社会**です。



学部	法学部 教育学部 社会学部 理学部 医学部 工学部 農学部
大学院	人文社会科学部 教育学部 医学部 理工学研究科 農学研究科 連合農学研究科



この冊子は、FSC®森林認証紙を使用しています。



この冊子は、再生産可能な大豆等の植物由来油を使用したベジタブルインキを使用しています。